

## 平成27年度土曜日の授業等に係る実施状況等について

### 1 実施状況調査結果の概要

資料1の市町等教育委員会対象の調査（以下「市町等教委調査」）、学校対象の調査（以下「学校調査」）、児童生徒及び保護者アンケート調査（以下「児童生徒アンケート・保護者アンケート」）の3種類の調査に基づき、概要をまとめました。

なお、本調査のうち、「学校調査」は、各小中学校の校長による回答であり、必ずしも児童生徒、保護者、教職員に直接アンケートを実施し、意見を把握したものではありません。「児童生徒アンケート・保護者アンケート」は、土曜授業推進事業実践校の児童生徒・保護者を対象としたアンケートの回答をまとめたものです。

#### <土曜日の授業の趣旨や意義>

- ・「市町等教委調査」では、趣旨や意義について、保護者・地域に説明をしたが理解を得るまでには至っていない市町は半減し、1割未満となっています。広報等での周知については、これまでの市町による説明で一定定着が図られたことや学校が周知を図っていること等から、周知を行わない市町が増加する傾向にあります。また、土曜日の授業の成果や課題を把握するための関係者による委員会等を設置した市町は減少しています。「保護者アンケート」でも、「説明が不十分であった」の回答は、小中学校とも1割未満となっています。【資料1：5（2）、（5）、（7）、（22）】

#### <土曜日の授業の実施日>

- ・「市町等教委調査」では、実施日を市町内で基本的に統一して行った市町は大幅に増加し、8割を超えました。【資料1：5（4）】

#### <土曜日等を活用した学習機会の保障を図る取組>

- ・「市町等教委調査」では、土曜日等を活用して、家庭での学習が何らかの理由で困難な児童生徒への学習機会の保障を図るための取組として実施されている課外授業や土曜学習は、増加する傾向にあります。【資料1：5（6）】

#### <学校における実施状況>

「学校調査」では、

- ・土曜日の授業は、昨年度は小中学校とも約7割の学校において実施されました。今年度は実質的に全小中学校において実施されました。【資料1：5（9）】
- ・主な授業の内容は、実施回数による比較はできないものの、昨年度同様、小中学校ともに「学力の向上」が一番多く、特に中学校では9割を超えています。また、「体力の向上」が、小中学校ともに、昨年度から大幅に増加しています。さらに、小学校では「学校図書館の活用」等、中学校では「キャリア教育」等も大幅に増加しており、各市町で地域の実情や発達段階に応じた授業が行われています。【資料1：5（10）】
- ・土曜日の授業の実施方法として、実施回数の増加に伴い、「通常の授業」、「家庭、地域住民等への公開授業」、「家庭、地域住民、大学、企業等との連携協力による授業」のいずれも増加しています。家庭や地域住民等の参画・協力が得やすいといった土曜日の利点も活かしながら、授業に取り組まれています。【資料1：5（11）】

## ＜土曜日の授業に対する児童生徒の様子、保護者、教職員の考え＞

### (疲れるので土曜日の授業はない方がよいか)

- ・ **学校調査**では、小学校で約7割、中学校で約8割となっていますが、**児童生徒アンケート**では、小学校で約4割、中学校で約6割半、**保護者アンケート**では、小学校で約3割、中学校で約4割と、学校の受け止めよりは少ない割合となっています。

【資料1：5 (16) ①、(18)、(20)】

### (友達と一緒に過ごせるので、嬉しいか)

- ・ **学校調査**では、昨年度に比べ、小学校で約1割、中学校で約2割増加しており、**児童生徒アンケート**・**保護者アンケート**でも、「土曜日の授業について思うこと」に関する選択肢の中で、小学校では約5割と最も多い回答となっています。

【資料1：5 (16) ①、(18)、(20)】

### (習い事や部活動などの時間と重なるので困るか)

- ・ **学校調査**では、小学校で約5割、中学校で約6割となっており、いずれも昨年度より約1割減少しています。また、**児童生徒アンケート**では、小学校で約1割、中学校で約2割、**保護者アンケート**では、小学校で約1割、中学校で約1割半となっており、関係団体との事前調整が進んだこと（**市町等教委調査** 約3割(H26)→約5割(H27)）が一つの要因であると考えられます。

【資料1：5 (3)、(16) ①、(18)、(20)】

### (土曜日の授業では、どんなことがしたいか)

- ・ **児童生徒アンケート**では、「何かを作ったり体験したりするような学習をしたい」の回答が、小学校で約8割、中学校で約6割と、小中学校ともに最も多い回答となっています。また、「普段の授業でわからないところを教えてほしい」の回答が、小学校で約2割半、中学校で約3割半、「普段の授業よりも発展的な学習がしたい」の回答が、小学校で約3割、中学校で約1割半となっています。

【資料1：5 (19)】

### (今後も継続して進めてほしいと保護者は考えているか)

- ・ **学校調査**では、昨年度に引き続き、小中学校とも半数を超えています。**保護者アンケート**でも、小中学校とも半数程度の保護者が回答しており、「土曜日の授業に対して当てはまるもの」に関する選択肢の中で最も多い回答となっていることから、土曜日の授業を肯定的に捉えている保護者が多いことがわかります。

【資料1：5 (16) ②、(22)】

### (参観しやすく、学校や子どもの様子がわかってよいと保護者は考えているか)

- ・ **学校調査**では、小学校で約8割、中学校で約7割となっていますが、**保護者アンケート**では、小学校で約3割、中学校で約2割となっており、認識の差が大きい状況にあり、実施方法等に改善の余地があると考えられます。

【資料1：5 (16) ②、(22)】

### (土曜日の授業をやる必要はないと保護者は考えているか)

- ・ **学校調査**では、小学校で約3割、中学校で約3割半となっていますが、**保護者アンケート**では、小学校で約1割半、中学校で約2割となっており、これらの実践校では土曜日の授業の趣旨等の周知が図られていることが一つの要因であると考えられます。

【資料1：5 (16) ②、(22)】

### (授業のない土曜日の過ごし方)

- ・「保護者アンケート」では、小学校では「家族で過ごす」の回答が約7割半と最も多く、次に「テレビやスマートフォンを見たり、ゲームをしたりしている」の回答が約5割半となっています。中学校では、「テレビやスマートフォンを見たり、ゲームをしたりしている」と「学校で部活動をしている」の回答がいずれも約5割で最も多くなっています。  
【資料1：5 (21)】

### (教職員の考え)

「学校調査」では、

- ・「必要性を感じない」とする学校は、小中学校とも、なお約8割あり、「土曜日の授業をもっと充実する方がよい」と考える学校は、小中学校とも約2割となっています。一方、「開かれた学校づくりにつながる」と考える学校は、小中学校とも約7割となっています。  
【資料1：5 (16) ③】
- ・週時程の平準化を図って土曜日の授業を実施している学校や、「土曜日を活用すれば、平日の負担を減らすことができる」と考える学校は、いずれも、小中学校とも約1割から2割となっています。  
【資料1：5 (13)、(16) ③】

## 2 土曜日の授業等の成果と課題

### <効果的な取組事例>

#### (学力向上の取組)

- ・土曜日の授業を実施することで、各教科の授業時間数を確保し、児童一人ひとりに、より行き届いた指導を行うことができた。
- ・全学年で、国語、算数の補充・発展プリント学習やこれまでの全国学力・学習状況調査問題、みえスタディ・チェック、ワークシートに取り組み、学力向上につながった。
- ・1限目に読書の時間を設定することにより、子どもたちの集中力が高まり、2限目以降落ち着いて授業に取り組むことができた。

#### (地域と連携した取組)

- ・小学校に市内の県立高等学校の吹奏楽部を招へいし、演奏会を実施した。文化体験活動の機会とするとともに、身近な先輩の活躍する姿に触れるよい機会となった。
- ・中学校で、日頃から自助、共助の意識を高め、有事の際に主体的な支援者となることを目的として防災プロジェクトを開催し、防災支援ネットの方にサポートを受けながら避難所設営体験を実施した。  
【資料2：P1・2】
- ・小中学校が連携して進めるキャリア教育の一環として、中学校の技術・家庭科の教員が校区の3小学校でロボット作りの授業をしたり、小学6年生が自分の将来について考え、ドリームマップ作りに取り組んだりした。  
【資料2：P3～5】
- ・PTAとの共催で「いのちの授業」やネットモラル講演会を実施したり、外部人材を活用して伝統文化にふれる機会を持ったりした。  
【資料2：P6～9】
- ・社会科の地方自治の発展学習として、町内全中学3年生（約100人）が町議場を使用して、生徒議会を開催し、町長、教育長等に町行政部局への質問や町づくりの提言を行った。  
【資料2：P10・11】

### (教育課程の工夫)

- ・これまで平日に実施していた学校行事を、土曜日の授業として実施することにより、平日の教科の授業の時間を確実に確保することができた。
- ・土曜日の授業により授業時間を確保し、平日の平準化を図り、成績処理、懇談会の準備等の校務を行う時間に充てることができた。
- ・3限連続した活動が実施できる利点を活かすことで、平日には実施しにくい生活科や総合的な学習の時間の授業を効果的に行うことができた。

### (土曜の課外授業の取組)

- ・中学校において、教員が指導者となり、希望者を対象に、数学、英語、国語等の補充学習を実施した。
- ・外国につながる児童を対象に、学校の図書館で、ボランティアに協力いただき、補充学習を実施した。

### (土曜学習の取組)

- ・小学4～6年生の希望者を対象に、算数の基礎・基本、活用（全国学力・学習状況調査問題等を基に、どのように考えたかを自分の言葉で指導者に説明する）の内容で、保護者が採点を、地域住民や大学生が指導を担当するという役割分担で、土曜チャレンジスクールを町教育委員会が中心になって実施した。

【学力向上通信「三重の学-viva!! (まなびば)」Vol. 8 (平成27年6月号)も参照】

- ・地域住民や退職教員等が指導者となり、経済的事情により家庭での学習が困難な中学生を対象に、公民館や集会所で学習教室を市教育委員会が主体となって開催した（3中学校区、計70回）。
- ・小学生を対象に、地域住民による体験教室（料理、工作等）「いきいき子ども学園」を開催した。

### <主な課題と取組>

- ① 週休日の勤務を同一週へ振り替えることが難しい。

(課題に対する取組)

- ・平成27年度に土曜日の授業を同一週に振り替えた学校の効果的な取組を情報共有するとともに、年度途中での学校訪問や各地域での小中学校校長会などの機会を捉えて、振替の概要の確認と適切な助言を行っていきます。

- ② 土曜日の授業の実施に当たっては、地域行事、社会教育団体及びスポーツ関係団体との調整が一定進んだが、特にスポーツ関係団体との調整については、なお難しさがある。

(課題に対する取組)

- ・継続的に地域や関係団体等に説明し理解を得るとともに、例えば、関係者による委員会を設置したり、地域住民等を含む既存の組織を活用したりするなど、成果や課題の把握に努め、必要に応じて改善を図ることが大切です。
- ・県教育委員会としても、大会等への日程調整について、スポーツ関係団体に一層協力を得られるよう働きかけるとともに、関係団体が大会等の日程調整を図るうえで、各市町の土曜日の授業の実施予定等が把握できるよう、県のホームページに掲載します。(3 平成28年度土曜日の授業実施予定参照)

- ③ 家庭での学習が何らかの理由で困難な児童生徒への学習機会の保障の観点から、土曜日を活用した取組は一定進んできているが、今後も、地域の実情に応じてより積極的に取り組むことが望まれる。

(課題に対する取組)

- ・今後も土曜日の授業はもとより、土曜の課外授業、土曜学習等、地域の実情に応じた取組を充実させることが重要です。また、放課後や長期休業期間を活用した学習機会の保障を図るため、コミュニティ・スクールや学校支援地域本部の取組等、家庭や地域と一体となった学校づくりが重要です。
- ・学校支援地域本部推進事業（地域未来塾を含む。）、補習等のための指導員等派遣事業、地域による土曜日等の教育支援事業等、多様な選択肢の中から地域の実情に応じて推進していけるように、情報提供や助言に取り組んでいきます。県教育委員会にもご相談ください。

### 3 平成 28 年度土曜日の授業実施予定

実施回数	実施週 (原則)	市町数	市町名
月 1 回程度 ※年間 8 回以上 又は 8 回程度	第 4 週	8	桑名市、木曾岬町、いなべ市、東員町、四日市市、菰野町、朝日町、川越町
	第 3 週	11	鈴鹿市、津市、松阪市、大台町、玉城町、伊勢市、伊賀市、名張市、熊野市、御浜町、紀宝町
年間 7 回程度	第 3 週	1	亀山市
年間 6 回程度		7	明和町、大紀町、多気町（小学校）、南伊勢町、度会町、紀北町、尾鷲市
年間 5 回程度		3	多気町（中学校）、鳥羽市、志摩市、

※ 地域や学校の実情に応じて、実施回数、実施週が変更される場合があります。

